



青空に綿雲が浮かんで正に夏の空でしたが、ほどよい風が吹いて爽やかでした。ダム of 堤体を歩いて西の出口から教育センターへ向かいました。堤体上を歩いていると、上空からはヒバリの囀りが聞こえ、耳を澄ますと田んぼからはオオヨシキリのギョギョシというジャズ調の声も聞こえてきました。



アメリカノウゼンカズラ

北米原産のつる植物。ノウゼンカズラに比べ花は細長く小さいためコノウゼンカズラとも呼ばれます。



ムラサキツメクサ

マメ科植物で、空中の窒素を固定でき、緑肥にも使われます。アカツメクサとも呼びます。



ヘラバヒメジョン

水資源機構の駐車場や堤体に白い花が目立っています。ヒメジョンの仲間ですが、葉の様子や付き方が違います。



ホオジロ

ヒバリの高鳴きのすさまじさに押されたのか、ホオジロが植え込みに止まっていました。高い場所で囀る鳥なので移動中のように



クサグモの巣

縦横40センチ以上もある大きな棚状の巣です。糸には粘球はなく、糸に引っかかって落ちてくる虫に素早く跳びかかって捕まえます。



ハゴロモの一種の幼虫

最近はどこへ行っても茎にとりついていてのを見かけるようになりました。南方系のハゴロモの仲間だと思います。



アカガネコハナバチ

体長8^ミ。背面に金属光沢がある蜂です。地中に巣を作り、花粉団子を作って幼虫を育てます。子どもは母蜂と暮らし、同じ巣で産卵し子育てをします。



クロヤマアリ

働きアリは4^ミ~6^ミ。上のように背中を横から見るとにゆるやかな山が二つあります。乾いた日当たりの良い地面に巣を掘り、アリマキの分泌する甘露や昆虫の死骸などを食べています。



ユリクビナガハムシ

幼虫も成虫もユリの葉を食べます。糞を背中に背負って敵に見つからないようにしています。成虫は10^ミ位。



トビイロトラガ

頭から尾まで20^ミ位の蛾。平泳ぎのように前脚を顔の前に回して脚の先を合わせています。どうしてこのような姿勢をしているのか不思議です。



ヨモギハムシ

青藍色の光沢をもち、ヨモギの仲間を食べ、葉の上を歩き回ります。成虫と秋に産んだ卵の両方で冬を越します。



ヒメベッコウバチの巣

巣の中に脚を切り取ったアリグモなどを入れ卵を産みつけるようです。母親は5個個目を作るため泥を採りに出かけているようです。



①トビイロトラガの翅を広げたところ、②ウンモンツマキリアツバ、③ホソスジツトガ



シロカネイソウロウグモ

植物 アカツメクサ、セイヨウミヤコグサ、ヘラバヒメジヨ、ヒメジヨ、ネジバナ、キバナノマツバニンジン蕾、オオニワゼキショウ、ハルジオン1、ブタナ、ニガナ、コメツブツメクサ、スマレ、オニタビラコ、テリハノイバラ、ヒヨドリジョウゴ蔓、アメリカノウゼンカズラ、タイリンキンシバイ、ミズキ、シンジュ赤い実、ハンテンボク実、コナラ実、**昆虫** モンシロチョウ、キタキチョウ、モンキチョウ、ベニジミ、ウンモンツマキリアツバ、カノコガ、スジベニコケガ、テングイラガ、トビイロトラガ、ホソスジツトガ、カノコガ、ホタルガ、不明ジャクガ2種、不明蛾の卵、みの虫・ネグロミノガ、モリチャバネゴキブリ、ショウリョウバッタ幼虫、ツユムシ幼虫、ホシササキ幼虫、ナナフシ、カマキリ類幼虫、ムネアカハラビロカマキリ卵のう孵化済、ホシハラビロヘリカメムシのにおい、キマダラカメムシ、不明ハゴロモの幼虫、モモコフキアブラムシ(ヨシ)、クサカゲロウの一種卵、ナナホシテントウ、マメコガネ、ウスチャコガネ、コフキゾウムシ雌雄、ヨモギハムシ、ユリクビナガハムシ幼虫、アカガネコハナバチ、スズメバチの一種、ヒメベッコウ巣、コマユバチ繭(マイマイガ幼虫)、ルリチュウレンジ交尾・幼虫、クロオオアリ、**クモ** チュウガタシロカネグモ、クサグモ巣、コクサグモ巣、シロカネイソウロウグモ、ジョロウグモ幼体、ヒラタグモ、ササグモ、クリチャササグモ、カニグモの一種、アシナガグモ、サツマノミダマシ幼体、**鳥その他** ツバメ、ホオジロ、ヒバリ、オオヨシキリ声、コサギ、カルガモ、ハシボソガラス、ハクセキレイ、カワウ、コシアカツバメ、メジロ声、イセノナミマイマイ

次回7月14日(木) 午前9時30分 水資源機構P前・雨天中止 参加費100円